

ブラ語名詞句の特徴：その2

塩田 勝彦

平成 11 年度 AFLANG 第 1 回研究会

1 ブラ語名詞/代名詞の特徴

1. 文法性が存在しない。
2. 複数形成に接尾辞を用いる。
3. 可譲渡 *alienable* / 不可譲渡 *inalienable* の区別が存在する。
4. 修飾語に対格をとる構造が存在する。
5. 名詞の派生は接辞および重複によって行われる。
6. 1 人称単数代名詞に包括と除外の区別がある。
7. 2 種類の不定人称表現が存在する。

2 名詞句の構造

2.1 連係構文 *Konnektiv/Konnexiv/associative construction*

いわゆる「所有構文」。被支配名詞 *nomen rectum* と支配名詞 *nomen regens* は何らかの連係辞 *associative morpheme* (或いは「所有の連辞」) で結ばれる。語順は、被支配名詞が支配名詞に先行する。

1. 属格構造
 - (a) 被支配名詞が可譲渡名詞
 - (b) 被支配名詞が非可譲渡名詞
2. 対格構造

2.2 直接修飾構文

連係辞を用いず、修飾語は直接名詞の後ろに立って修飾する。直接修飾に用いられる要素には、名詞、形容詞、数詞、指示詞、限定詞などがある。

2.2.1 名詞

単に被支配名詞に支配名詞を後置したもの。

- (1) *gùdàgè mfwà* 「木の幹」 (*gùdàgè m* 「幹」, *mfwà* 「木」)

- (2) ɓwantsəkà mtəkà 「鶏の上部腿肉」 (ɓwantsəkà 「穂を束ねたもの」
mtəkà 「鶏」)
- (3) gàn puwà 「綿の木」 (gàn 「切り株」, puwà 「綿」)
- (4) mpəl kulyàn 「手指の爪」 (mpəl 「爪」, kulyàn 「手の指」)
- (5) təkshà dika 「ネコジャラシ」 (təkshà 「高粱」, dika 「鳥」)
- (6) àyibà mwaɓəlù 「バナナに似た植物」 (àyibà 「バナナ」, mwaɓəlù 「ハイエナ」)

次の例は連係構文。

- (7) tsi-a mfwà 「枝」 (tsi 「手」)
- (8) ɲgìlàŋ-a mfwà 「根」 (ɲgìlà 「脛」)
- (9) bwàn-a mtəkà 「鶏の脚」 (bwàn 「腿」)
- (10) mpəl-a takù 「蹄」 (takù 「馬」)

名詞による直接修飾構文は、(5)、(6) のように、明らかに合成による名詞の派生の方法として用いられている例もあるが、(1)、(2)、(3)、(4) のように、実際連係構文との意味上の区別がつけにくい例も多い。

連係構文の中にも 1 単語として認識される例が存在する。(8) は、1 単語と 2 単語の間で認識が揺れており、次のように二通りの複数が可能である。

- (11) ɲgìlàŋ-ayèr-a mfwà
- (12) ɲgìlàŋ-a-mfw-ayèrì

2.2.2 形容詞

ブラ語には形容詞的に機能するいくつかの語がある。これらには、形態上他の品詞と区別のつかないものと、重複音節のものがある。後者の多くは動詞、或いは名詞から派生されたことが明らかである。

'wala 「大きい」	msərà 「快適な, 旨い」
ḡḡaakù 「良い」	pwâ 「良い」

məŋgəl 「黒い」	mwapù 「白い」
mamzà 「赤い」	sabəl 「(背が) 高い」

bilīn 「新しい」	zurəŋ 「深い」
kwadàŋ 「短い」	gùzhàt 「長い」

ḡḡal 「強い」	ḡḡḡḡhu 「苦い」
mwumwàsu 「すっぱい」	lələḡḡ 「涼しい」

rakka 「小さい」	ləffa 「ぬるい」
-------------	-------------

bwàrbwàr 「熱い」	gərgər 「熱い」
ŋwalŋwal 「鋭い」	kalkal 「正確な」

(13) pwapu nì kwadàŋ. 「この蛇は短い」

(14) pwapu kwadàŋ 「短い蛇」

(15) pwapu na kwadàŋ 「短い蛇」

(16) pwapu aḡi kwadàŋ 「短い蛇がいる」

(17) pwapu aḡi na kwadàŋ 「短い蛇がいる」

これらの語は, 名詞句の中で被支配名詞を直接修飾し, 連係辞はとらない。
しかし (15) では関係詞 na をとっており, これは関係節と解釈すべきである。

複数形容詞 形容詞は重複により複数形容詞を派生する。形容詞は原型のままでも複数名詞を修飾できるが, 複数形容詞を単数名詞に用いることはできない。

(18) mji na ḡḡalḡḡal/ḡḡal. 「強い人々」

(19) mdə na ḡḡal. 「強い人」

(20) *mdə na ḡḡalḡḡal.

(21) kudzəha 「近い」

(22) kudzəkudzəha 「お互いに近い」

(23) kiḡa kudzəkudzəha. 「彼らの家はお互いに近い」

msərà 「快適な」のように複数形容詞を作れないものもある。

接尾辞 -a/-Ca による派生 接尾辞 -a/-Ca (母音の後ろで -a , 子音の後ろで -Ca; C は語末子音と同じ) を付加して「やや～な, より～な, ～ばい」という, 周地的, もしくは比較を前提にした意味の形容詞を派生する。

(24) mɛŋgəl 「黒い」

(25) mɛŋgəlla 「黒っぱい」

(26) ʃɔ̃aakù 「良い」

(27) ʃɔ̃aakka 「やや良い」

(28) msərà 「快適な」

(29) msəràà 「より快適な」

rakka 「小さい」, lɔ̃ffa 「ぬるい」のように, この派生形と同じ音節構造を持つ形容詞があるが, これらも -a による派生が可能である。

(30) rakkaa 「やや小さい」

(31) lɔ̃ffaa 「ややぬるい」

声調は直前の音節と同じだが, 派生形が不規則な声調パターンをとる例もある。

(32) gèr 「熱い」

(33) gèrra 「ぬるい」

(34) mwumwàsu 「すっぱい」

(35) mwùmzwàssa/mwumwàssa 「少しすっぱい」

比較, 最上表現 比較の対象が明示されない場合は, -a/-Ca による派生形容詞が比較級として機能する。比較の対象が明示されている場合は, 形容詞の原型がそのまま用いられる。最上表現は「すべてより～だ」という形で表され, 特別な「最上級」は持たない。

(36) mbwa madèn rakkaa ri? 「どの家がより小さい?」

(37) ɲèni rakka ta ɲèndâ. 「これはあれより小さい」

(38) mbwa nì rakka ta shaŋ. 「この家は一番小さい」

ta 「～より」, shaŋ 「全部」

'wala 「大きい」は例外で、比較に 'wallaka 「とても大きい」という一種の強調形を用いる。比較の対象が明示されないとき、および最上表現では原型を用いる。

(39) tàwul na 'wala 「大きなトカゲ」

(40) tàwul ɲèni 'wallaka. 「このトカゲはもっと大きい/とても大きい」

(41) tàwul nì 'wal ta shaɲ. 「そのトカゲが一番大きい」

抽象名詞の派生 形容詞/動詞に接尾辞 -kwûr を付加して抽象名詞を派生することができる。

(42) ðimi 「悪い」 ðimikûr 「悪いこと」

(43) kəkafu 「軽い」 kəkafukûr 「軽さ」

(44) məŋgəl 「黒い」 məŋgəlkûr 「黒さ」

(45) ɲàwa 「病気の」 ɲàwakûr 「病気」

抽象名詞は主語の位置に立ったり、修飾されたりすることも可能。

(46) ɲàwakûr-r-ni nì mwavər. 「彼の病気は重い」

重複形容詞 重複形容詞は外来語 (?) を除き、すべて派生形であると推定される。ただし派生の基となった形が、単独ではすでに用いられていない例も多い。

(47) gərgər 「熱い、沸いている」 gər 「熱い」

CVC 音節を持つ語は、イデオフォンや副詞に多い。

(48) i wùtə jilki vìw. 「私は飛行機がびゅうっと飛ぶのを見た」

(49) i wùtə mfwayèrì haɲ àkwa gàdìnà. 「私は庭でたくさんの樹を見た」

(49) の haɲ 「たくさん」は副詞とも形容詞とも解釈可能である。

kalkal 「正確な」は、北部ナイジェリア～北部カメルーンで広く用いられているが、どの言語に起源を持つかは不明。

kalkal (Kanuri) "sameness, likeness, exactness" (Cyffer 1991)

ƙyalkyal (Hausa) "exactly" (Abraham 1962)

kalkal (Fulfulde-Northern Cameroon) "être égal" (Noye 1989)

重複形容詞がさらに重複されることはない。

名詞の重複による派生形容詞

- (50) yimi 「水」
- (51) yimiyimi 「水っぽい, 湿った」
- (52) hì nì yimiyimi. 「この土地は水っぽい」
- (53) maɓu 「泥」
- (54) maɓumaɓu 「泥んこ, 濁った」
- (55) yimə maɓumaɓu nì a sa wà. 「この濁り水は飲めない」
- (56) una 「塩」
- (57) un'una 「塩辛い」
- (58) sukwar ɲèni un'una. 「このスープはしょっぱい」
- (59) ɲkyàr 「若者」
- (60) ɲkyàrɲkyàr 「若い」
- (61) mdə na ɲkyàrɲkyàr 「若い人」
- (62) hakcìrì 「苔」
- (63) hakcìrhakcìrì 「緑色の」
- (64) dika nì hakcìrhakcìrì. 「その鳥は緑色をしている」

動詞重複形の形容詞的用法 ブラ語では動詞の重複形を形容詞として使用する。それらの動詞は意味において起動相のものが多い¹。

叙述用法では接尾辞 -arì を必要とする点に注意。

- (65) halà 「老いる」
- (66) halhalà 「老いた」
- (67) mdə halhalà 「老人」
- (68) mdə ɲèni halhalarì. 「この人は老いている」

¹ 動作動詞は重複により状態動詞を派生するが、その場合声調変化を伴う。

hwì 「走る」
hwùhwi 「走っている」
nzì 「居るようになる, はまる」
nzènzi 「座っている」

- (69) təksà 「太る」
- (70) təksətəksà 「太った」
- (71) mwàlà təksətəksà 「太った女」
- (72) tsa təksətəksari. 「彼女は太っている」
- (73) ula 「乾かす」
- (74) ul'ula 「乾燥した」
- (75) kəlfā ul'ula 「干し魚」
- (76) kəlfā nì ul'ulari. 「その魚は干からびている」

形容詞的概念を表現するその他の方法 前置詞/接続詞 ka 「～とともに」を用いる方法。ただし叙述用法のみ。

- (77) bərbə̀r 「埃」
- (78) ka bərbə̀r 「埃っぽい」
- (79) vī nì ka bərbə̀r. 「この場所は埃っぽい」
- (80) maβu 「泥」
- (81) ka maβu 「泥んこ」
- (82) làkwù nē ka maβu. 「この道はぬかっている」

2.3 関係節

ブラ語には関係詞が2種あり、先行詞が関係節の主語になる場合 (na) と、主語以外になる場合 (tə) で異なる。先行詞が主語になる場合、関係節内部には主語を必要としない。

- (83) mdə na ka kwə̀bà. 「金持ち」
- (84) mdə na tərà dūna tsa kətə̀ mwàlà-tlā na àkwa bəri ɲèni. 「最も力の強いものが、この群れの雌牛を引き継ぐのだ」
- (85) swu tə gə hara nì gatà ləkwa səli. 「お前のしたことを恥じるようになるぞ」
- (86) bzər tə i wùtə nahā atà si dəpā. 「私が昨日見た少年が明日来る」

(87) bzər na rubətali kàkàdù atà si dɛpâ. 「昨日手紙を書いた少年が明日来る」

na には、指示詞に前置され、指示されている対象を強調する働きがある。

(88) ɲɛni cəwàr. 「これは象です」

(89) na ɲɛni cəwàr. 「これが象です」

慣用的な例

(90) na haɲ ta shaɲ 「多数派、過半数」

参考文献

Abraham, R. C. 1962. Dictionary of the Hausa Language. 2nd ed. London, University of London Press.

Cyffer, Norbert. 1991. We Learn Kanuri. Köln, Rüdiger Köppe.

Jungraithmayr, H. and J.G. Möhlig (eds.). 1983. Lexikon der Afrikanistik. Berlin, Dietrich Reimer.

Matsushita, Shuji. 1991. A Basic Vocabulary of the Sokoto Hausa (Northern Nigeria). Tokyo, ILCAA.

Noye, Dominique. 1989. Dictionnaire foulfoudé-français: Dialecte peul du Diamaré Nord-Cameroun. Paris, Paul Geuthner.

Welmers, W.E. 1973. African Language Structures. Berkeley, University of California Press.